

ワンポイント 家庭菜園



ジャガイモの 育て方

お年寄りから子供まで人気のあるジャガイモ（馬鈴薯）。男爵やメークインが定番ですが、昨今はキタアカリなど品種改良したものが増えてきました。

（１）生育に適した環境

ジャガイモはナス科の野菜で、原産地はアンデス山脈です。生育適温は10℃～23℃で、pH 5.0～6.0の砂壤土～壤土を好みます。

（２）種いもの準備

無病種いもを手し、ハウスや納屋の明るく暖かい場所（適温は15～20℃）で光が十分に当たるようにして催芽します。芽の長さは5～10mm程度。

種いもは専用のものを使い、食用のものは避けましょう。

（３）種いもの切り方

植付け1～2日前に、頂部のよい芽が各切片に均等に付くよう縦に切断します。1片の重さは50g程度とします。

日陰で切り口を2～3日乾かすか、切り口にわら灰や草木灰をつけるとよいでしょう。

（４）畑の準備

植付け2週間前までに、pHが極端に低い場合は1㎡当たり苦土石灰50g程度を散布し、耕します。1週間前に、たい肥2kg、化成肥料120g、溶燐30g程度施用し、よく耕して土を膨軟にします。

窒素過多は、過繁茂による収量の低下や病気の発生を助長するので注意しましょう。

（５）植付け（3月下旬～4月上旬）

畝幅80cm、株間27～30cmで、植え溝の深さを15cm程度にし、種いもの切り口を下にして5～6cm程度覆土します。

浅植えや深植えは避けましょう。

（６）芽かき

種いもから芽が多く出るので、芽が7～8cmころに生育のよい芽を1～2本残して他はかきとります。

（７）追肥

芽が出たら早めに（草丈10cmころ）1㎡当たり化成肥料50g程度、株間に追肥します。

追肥が遅れると、いもの肥大が抑えられ、でんぷん含量が低下するので注意が必要です。

（８）土寄せ

一回目…追肥直後に5cm程度
二回目…草丈が30cm程度になった頃、10～15cm程度

株元まで土寄せし、緑化、腐敗を防ぎましょう。

（９）収穫（6月下旬～7月下旬）

茎葉が黄変後、いもの腐敗を防ぐため、晴天が2～3日続いた後、土が乾いたときに掘り取ります。掘ったものは、緑化防止のため直射日光に当てないよう陰干しにします。

（文責 金沢農業大学校長大藏 捷直）

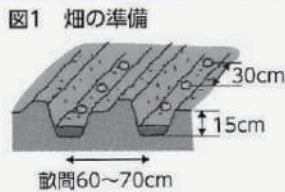


図1 畑の準備



図2 種イモの切断



図3 芽かき



図4 追肥・土寄せ



図5 収穫

「軽トラ市」に出店

金沢農業大学では、販売体験研修を実施しました。



研修生が栽培した野菜はお客様にも大好評！充実した研修となりました。

